

## **若林区連坊地区民生委員児童委員協議会**

(平成 26 年 6 月 16 日掲載)

連坊地区は仙台駅東から東北本線北側沿いに南東へ広がり、来年には地下鉄東西線が通る交通の利便性の良い地区です。当地区には高層マンション、寺院、そして古くからの住宅街が混在し、1 万 2,000 人余が暮らしています。そのなかで主任児童委員 2 名を含む民生委員・児童委員 25 名が、14 町内会で活動しています。

以前より、地震発生時にはひとり暮らし高齢者や高齢世帯の安否確認が行なわれており、今回の大震災でも、津波被害がなかったことも幸いし、翌朝までには安否確認の報告が会長と町内会各会長にもたらされました。

しかしながら、地区唯一の指定避難所である連坊小路小学校や、隣接するコミュニティセンター、また一時避難所の県立高校 2 校には、駅方面からの帰宅困難者が溢れ、また停電や断水によりマンションからも多数の方が避難所に集まりました。水道や電気は早期の復旧がなされたものの、市ガスが供給されるまでに約 1 か月を要しました。混乱するなか、隣近所での「もらい風呂」や、寺院の前に貼られた「お水お使いください」の一言が、古くから残る地域の絆を思わせてくれました。

また、当地区には県内外からの被災者の方がたが民間借上住宅に 80 世帯ほど住んでいます。しかし民生委員・児童委員に氏名を通知することを了承される方は少なく、サロン案内や地区社協広報誌の配布などで、より顔の見えるお付き合いができるよう取り組んでいるところです。

今、当地区では、連合町内会など関係諸団体と合同で、市のマニュアルをもとに地区独自の避難所運営を検討しています。迅速な行動のために、避難所の配置のあり方など、より具体的な支援方法の明確化が求められています。震災後、通信や交通手段を持たない高齢者や在宅被災者は、食糧確保に苦労しました。高齢者に負担の少ない距離での避難、そして備蓄場所や情報伝達方法も検討課題です。地域の大きな連携ときめ細やかな活動を、地域の安心の充実につなげようと踏み出しています。